

JELA NEWS

ジェラ ニュース 第21号 2010年4月15日発行 発行責任者 森川 博己

日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入者名 日本福音ルーテル社団

難民支援/アジア子ども支援/ブラジル子ども支援/ボランティア派遣/リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座/奨学金制度/宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

「お前たちは、わたしが飢えているときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく、私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」 マタイによる福音書 25章35節～36節、40節



フルートの妙なる調べを全国9教会に運びます

JELAと日本福音ルーテル教会世界宣教委員会が主催する第7回世界の子ども支援チャリティコンサートが、5月から6月にかけて全国9箇所(博多、松山、甲府、三鷹、神戸、静岡・音羽町礼拝所、栄光・藤枝礼拝堂、田園調布、聖パ

ウロ)で開催されます。今回は5つの教会が初めて会場となりました。ありがとうございます。演奏者は上野由恵さん(フルート)と圓井晶子さん(ピアノ伴奏)。二人とも初出演です。詳細は3ページの開催要領をご覧ください。

【この号にはこんな記事が】 インドの病院で医療機器操作訓練 ……2 6歳の少女を救おう ……3 チャリティコンサート開催要領 ……3 学ぶことの意義(奨学金受給生) ……4 『おとうと』出演エピソード ……5 書籍紹介『大いなる看取り』 ……5 JELA歴史コラム7(長尾博吉) ……5 ブラジルからの便り ……6~7 お知らせ(支援者一覧など) ……8



インドのCRHP病院で医療機器操作訓練を実施

日本の外務省補助金(NGO連携無償資金協力)によりインドの支援組織CRHP(総合的地域健康プロジェクト)新病院に搬入した超音波診断装置の操作訓練を2009年12月上旬に現地で行っていただきました。JELAの事業に共鳴し現地に行ってきたのは、北九州市にある産業医科大学に勤務する竹内正明医師(同大学内科学講師・医学博士)です。ご本人はクリスチャンであると共に本装置を用いた心臓病診断の権威であり、現地の医師数名に基本的な操作法やデータ計算法等について三日間にわたる訓練をしていただきました。

以下は、訓練を受けたCRHP責任者ショウバ・アロレ博士によるレポートと、訓練時に行った無料診断で重い心臓病が発見された少女に関するレポートです。

超音波診断装置による心エコー操作訓練受講報告

CRHP共同事業責任者
ショウバ・アロレ(医学博士)

日本政府の補助金によって当病院に超音波診断装置が設置され、その操作訓練のためにJELAが派遣した竹内正明医師によって施された心エコー診断を中心とする実地訓練は極めて有益なものでした。竹内医師は心臓病の専門家であり、超音波診断装置を用いた心エコー診断技術に精通しています。同医師による三日間の訓練によって、機器を用いた心エコー診断のやり方の実際を体験するこ

とができました。

竹内医師は心エコーと超音波診断装置の操作に関する基本的事項を説明したあと、心エコー診断時に心臓部位を見るための数種類の主要な操作を実演して見せ、さらに別の二種類の重要な操作についても機器を操作しながら示してくださいました。いずれも良く準備された、わかりやすい説明でした。竹内医師はさらに、本機器を用いた心エコー診断の応用技術にもふれ、さまざまな患者を診る際に役立つ知識・技術を紹介してくださいました。

期間中に50名の患者を本機器を使用して実際に診断し、それぞれの患者の特徴・状態について、機器に写った画像をもとに竹内医師は要点を説明してくださいました。この実地訓練を通して、いろいろな患者のさまざまな疾病について学ぶことができました。実際の患者を対象に画像を見ながら竹内医師に解説してもらったことによって、心臓病理学の多様な知識を身につけることができました。

以上の他にも、機器を用いた測定・計算の方法の学習に多くの時間があてられました。一定のデータを入力すると機械が自動的に計算してくれるものがある一方、人間が自分で測定して計算を要するものが存在します。竹内医師はそれらの内容を説明しながら、実際に私たちに測定・計算作業をして見せてくださいました。竹内医師はまた、日本から持参した自分のパソコン上で心エコー技術の学習教材を展開して見せてくださいました。これも技術を習得するうえでたいへん役

立ったと感じています。実技指導、基礎理論とその応用等の説明が多角的に順序良く提供され、限られた訓練期間ではありましたが、多くの知識と技能を自分のものにすることができた機会となりました。

以上のように、今回の訓練はたいへん有意義なものでした。目の前で実技指導をしてもらったことにより、日本政府の補助金を得て設置された超音波診断装置を、より有効に活用できるようになったことがこの訓練の最大の成果だと思います。日本から竹内医師のような専門家が来訪し直接指導を受けられるのは、技術習得という面から最も効果的なやり方ですし、この訓練で得られた技能があつてこそ、周辺地域の貧しい方々にこの病院が貢献できることとなると感じています。

今回のような訓練を、JELAの支援により今後も何回か受けられるように希望いたします。医療機器の購入費用を提供していただいた日本政府、訓練を提供していただいたJELA、そしてこんな遠いところまで日本から来てくださったグリテバック氏と竹内医師に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



CRHP病院での竹内医師の訓練時に心臓の無料検査を実施しました。現地周辺は医療施設が乏しく貧しい村落地域ということもあり、ショウバ博士のレポートにもありますように、6歳から80歳までの50名以上の人がこの検査を受けました。片道8時間以上かけてやってきた人も10名前後おられたようです。

受診者の中にVaishnaviという名前の6歳の子がいました。彼女はCRHP病院のあるジャムケッドから1時間ばかり離れた村に暮らしています。ダンスや塗り絵、そして友達と遊ぶことが大好きな少女です。写真からもわかるように、明るい声でよく笑う子です。1年前に父を交通事故で亡く

あなたの寄付が6歳の少女の命を救います

し、いまは母親と二人で暮らしています。一見、ふつうの子と変わらないVaishnaviちゃんですが、12月8日の検査で心臓に穴があいていることがわかりました。竹内医師によると手術をしないと長生きできないようです。母親はそれを聞いて驚き悲しみました。家が貧しくて手術代が工面できないからです。JELA関係者は「私たちがなんとかしてVaishnaviちゃんを助けてあげるから元気を出して」と励まして別れました。

手術は設備の整った大きな病院でする必要があるのですが、さいわい、ジャムケッドから200キロばかり離れたところにあるバブテスト系の医療大学が引き受けてくれるようです。外務省補助金をいただけたことによって使えるようになった超音波診断装置ですが、検査対象の数が増えるにつれて、Vaishnaviちゃんのような人が他にも見つかるかもしれません。手術が必要なのに貧しさゆえそれをあきらめざるを得ない人々です。JELAはこのよう

人や家族に少しでも希望を与えられたらと思っています。ご賛同いただける読者の皆さま、JELAの「アジアこども支援」プログラムにご寄付いただけませんか。感謝して使わせていただきます。



竹内医師の診断を受けるVaishnaviちゃん。左端は母親。

第7回「世界の子ども支援チャリティコンサート」開催要領

●テーマ

Helping Children in Need 飢えや病気に苦しむ子どもたちに愛と希望を!

●主催

日本福音ルーテル社団(JELA) / 日本福音ルーテル教会・世界宣教委員会

●協賛団体(一部交渉中)

シュローダー証券投信投資顧問株式会社 / 野村證券株式会社 / 石橋葬儀社 / 株式会社ハリファックスアソシエイツ / 株式会社西村建築設計事務所 / 泰成印刷株式会社 / 株式会社ソニック・オクムラ / 有限会社リフォーム・イケ / 伊達工業所 / 小林商事株式会社 / 本郷学生センター

●日程・会場

- 5月14日(金)午後6時半
日本福音ルーテル博多教会
- 5月16日(日)午後2時
日本福音ルーテル松山教会
- 5月22日(土)午後2時
日本福音ルーテル甲府教会
- 5月23日(日)午後2時
日本福音ルーテル三鷹教会
- 5月29日(土)午後3時
日本福音ルーテル神戸教会
- 5月30日(日)午後2時
日本福音ルーテル静岡教会・音羽町礼拝所
- 5月31日(月)午後7時
日本福音ルーテル栄光教会・藤枝礼拝堂
- 6月5日(土)午後7時
日本福音ルーテル田園調布教会

■6月6日(日)午後1時

日本福音ルーテル聖パウロ教会
※開場は上記の30分前。入場無料。ただし席上献金あり。

●演奏者

フルート 上野由恵(うえの・よしえ)
東京芸術大学をアカンサス音楽賞を得て首席卒業。2008年同大学大学院修了。
2004年第2回東京音楽コンクール第1位。
2004年第15回日本木管コンクール第1位、コスモス賞(聴衆賞)、兵庫県知事賞、朝日新聞社賞。
2007年第76回日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)、加藤賞、吉田賞、E・ナカミチ賞。
2009年香川県文化芸術新人賞受賞。
2005年皇居内桃華楽堂にて御前演奏、
2008年首相官邸での日中首脳会談晩餐会で演奏などの他、読売日響、新日本フィル、東響、東京フィル、関西フィル、チェコフィル室内管、チェコフィル六重奏団、アマルコルド・カルテット(ベルリンフィル)等との共演や、NHK-FM 名曲リサイタル等多数のテレビ・ラジオ番組に出演。

ピアノ 圓井晶子(つむらい・あきこ)
東京芸術大学卒業。2008年同大学大学院修士課程修了。第2回ウィーン音楽コンクール・イン・ジャパン中学生の部第2位、中日新聞社賞。2005年アジア国際音楽コンクール大学生部門第3位。
2006年東京芸術大学主催【藝大の響き】

シューマン・プロジェクトに出演。
2008年カワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」にて、カワイ音楽振興会主催ジョイント・リサイタルに出演。

●演奏曲目

ビゼー:「アルルの女」よりメヌエット / チャイコフスキー: 感傷的なワルツ / ラフマニノフ: ヴォカリーズ / リムスキー = コルサコフ: 熊蜂の飛行 / バッハ: 「管弦楽組曲第2番」よりポロネーズ、パティネリ / バッハ: G線上のアリア / 城ヶ島の雨 / 浜辺の唄 / モンテ: チャルダッシュ

* 曲目は都合により変更になる可能性があります。

●献金の用途

JELC 連帯献金(世界の子どもたちのために) / JELA が支援するアジア、ブラジルの貧しい子どもたちや、日本国内の困難と直面している子どもたちのために用います。

●問合せ総合窓口

日本福音ルーテル社団(JELA)
150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-20-26
電話: 03-3447-1521
ファックス: 03-3447-1523
E-mail: jela@jela.or.jp



JELAの奨学金は毎年数名の方に提供していますが、今回はシンガポール在住のZwe Hay Hman Thet Linさんからの便りを掲載します。Zwe Hay Hman Thet Linさんはビルマ（ミャンマー）人で、両親が日本で難民として保護を求めて申請をし、ご家族が1990年代に難民として認められましたが、それまでオーバーステイ（滞在資格がない状態。難民申請者はオーバーステイの人が多い）だったことから、合法的に日本に滞在することができなかつたため、彼女はシンガポールの叔母のもとで育ちました。父親は著名な政治活動家です。

学ぶことの意義

JELA奨学生 Zwe Hay Hman Thet Lin

☆教育

教育は人生において、とりわけ次世代を担う私たちにとって、なくてはならないものだと思います。著名なギリシャの哲学者であり西洋で最初の高等教育機関を創設したプラトンは、どのような分野においても教育の最終的な目標は、道徳を身につけることだと考えました。単に恩恵や喜びを認識するだけでなく、道徳を学ぶということです。太陽が私たちの目に見えるものを明るく照らすように、道徳はあらゆる価値あるものの本質を理解するための絶対的基準となってくれます。私はいつもこのプラトンの言葉を念頭におき、勉強に励んでいます。しかしながら、勉強に対する情熱があっても経済的な理由から目標を達成できない人もいます。私も、日本福音ルーテル社団(JELA)を知る前はそんな一人でした。

☆喜びと現実

高校卒業後、私は新しい学校で新たな学問を学べる期待でいっぱいでした。ですから、シンガポール国立南洋理工学院(NYP, <http://www.nyp.edu.sg/>)に合格したと聞いたときは人生で一番幸せな瞬間でした。その上、希望通り情報工学科に入学できるのです。情報工学科ではIT(情報技術)と産業に関する知識を組み合わせたカリキュラムを提供しています。名門校であるNYPに合格し、私の家族も大変喜びました。NYPは質の高い教育を提供する優れた教育機関であり、著名な卒業生を多数輩出しているからです。私の母の姉はNYPの卒業生であるため、母はとりわけ私を誇らしく思いました。叔母が現在エンジニアとして成功しているのは、NYPのおかげだと母は考えています。私も叔母や他の卒業生のようになりたいと願いました。彼らの学問に対する情熱や熱意は素晴らしいものです。

ところが、経済的に進学が困難な状況となりました。私はすばらしい教育機関で学べることを本当に楽しみにしていたので、ひどく落ち込みました。ほとんど絶望しかけていたとき、日本に住む両親がJELAの奨学金制度の存在を知ったのです。安堵と喜びの気持ちでいっぱいになり、すぐに応募しました。JELAが人種、言語、宗教に関わらず困っている人すべてを援助している点に感銘を受けたことも、この奨学金に応募した理由です。食糧、教育、医療、井戸敷設などへのJELAの支援は、発展途上国が最も必要とする事柄に対する重要な取り組みだと思います。

慈善活動はいつも家庭から始めると私は考えます。そして、その視野を家の外にも広げ、これまで時間があれば困っている人を助け、与えられるものがあれば寄付してきました。学校の地域交流プログラムを通して、時間外でも頻繁に老人ホームを訪問しましたし、学内でも、リーダーシップを発揮することで先生やクラスメートに何らかの助けになるようなことをしました。高校在学中は学生指導部長に選ばれ、リーダーとして何度も表彰されました。

このたびJELAから奨学金を受けることができ大変嬉しく思います。JELAは、私が社会に還元してきたものを評価し、ごほうびをくださいました。JELAからの奨学金のおかげで私の心、知力、そして魂を、教育を通して良いことに役立て、これからも社会に役立っていきます。

☆次のステップ

私は自分の将来に十分な自信を持っていますし、JELAが私の能力を信じてくださることを嬉しく思っています。子供のころ、人生の計画や目標を書き込んだ表を作りましたが、大人になった今、その表が終わりに近づいていると感じられます。

NYPでの勉強を終えて情報工学の卒業証書を受け取った後は、大学への進学を考えています。大学では政治学を専攻したいです。父の影響もあり、政治や歴史に常に関心を抱いてきたからです。父は、一人の人間が社会に変化をおこすことができると教えてくれました。また、父を一人の人間として尊敬しています。彼を動かしている原動力や決意の強さを思うとき、私は自分が将来何をすべきか、毎日考えさせられるのです。

私の夢は、世界最高レベルの高等教育機関であるオックスフォード大学に進学することです。オックスフォードは私の国の英雄、そして私個人の英雄でもあるアウンサン・スーチー女史が政治を学んだ場所だからです。非暴力による民主主義・人権運動が評価され、彼女はノーベル平和賞を受賞しています。経済的な手段を確保できなければ、アウンサン・スーチー女史の後に続くことは夢で終わってしまうでしょう。そうならないために、自分の心、知力、魂すべてを注いで全力で勉強します。私がNYPで良い成績をあげることができたとき、JELAがまた奨学金を与えてくださることを期待して。

☆心からの感謝とともに

私のさらなる夢は、政治家か弁護士になることです。大学まで勉強が続けられれば、必ず政治家か弁護士として成功できると確信しています。皆さんが将来、新聞で私の名前をご覧になる日が来るかもしれません。

また、どんなときでも私を支えてくれた両親が幸せな老後をおくれるよう、恩返しをしたいと思っています。さらに、将来JELAにボランティアとして参加することで、JELAにも恩返しをしたいです。しかし、誰かの役に立つ人間になるには、今は一生懸命勉強することが先決です。

現在のNYPでの生活にはとても満足しています。学校の環境や雰囲気、学習仲間が予想どおりでしたし、先生方も、多方面にわたる授業を、全体を結び付けるような形でくださいます。時には教室の外に出て、社会の中で学ぶという斬新な教え方も実践されています。これまでに受けた授業はどれも興味深いものでした。卒業後の専攻と関係なく、NYPで学んだことは必ず将来への足がかりとなることでしょう。

最後にもう一度、JELAにお礼を言いたいと思います、JELAの皆さん、ありがとうございます！ 私への支援、世界中での様々な援助活動、それらを行っているJELAという存在に感謝します。皆さんが私を誇りに思ってくださいようがんばります。



最初に映画出演の話があったとき、私はあまり乗り気ではありませんでした。でも、JELAの職員の一人が「山田洋次は日本でもっとも尊敬されている監督の一人なんですよ。その作品に出られるのは、とても名誉だし、JELAにとっても、リラ・プレカリアを多くの人に知っていただく絶好の機会です。出るべきですよ!」と、あまりに熱心に勧めるので、そのことばが耳に残り、真剣に考えたすえに、出演を引き受けることにしました。

撮影準備のときです。映画スタッフは、映画に登場するホスピスのセットの4階ラウンジで、患者さんにむかってハーブを奏できるように言われました。ふだん自分がやっている形とまったく違います。スタッフが期待したのは、ムードミュージックかBGMのような音楽を奏でることだったのです。これはリラ・プレカリアの働きとは違いますし、こんな形で出演したらリラ・プレカリアが正しく伝わりません。そう感じた私は、私たちの奉仕は患者さんの個室でその人に寄り添いながら行うもの、つまり、個人を尊重する奉仕なのだとはっきり申し上げました。映画に出演するなら、自分がやっている通りにやりた

JELA歴史コラム その7

「仏教幼稚園でのクリスマス」



JELA常務理事 長尾博吉

私が、静岡教会に赴任したのは1969年、終戦後24年目の春のことでした。敗戦後24年経っているとは言ってもまだまだ戦後の不安定さは色濃く残っていました。私は赴任とほぼ同時に、前任者に引続き静岡刑務所の宗教教誨師を務め始めていました。刑務所には、いろいろな宗教の信者が収容されています。それで仏教の僧侶や神社の神主や教派神道の教主さん達との交流がありました。ある時、お寺の僧侶から キリスト教は駐留軍の宗教であり、彼らの保護があり、今は正にキリスト教の時代ですね”と羨ましがられました。半分は皮肉であったかも知れませんが、それは確かにその通りでした。

かったのです。そして、私の要望がかなえられないなら他の、普通のハーブ奏者を探してくださいともお伝えしました。パストラル・ハーブを実践している立場から、映画スタッフの方々の要求を受け入れることはできなかったのです。

このことがあってしばらくしてから、この映画の脚本家の一人がきぼうのいえにやって来ました。私は彼女を伴って患者さんの部屋に行き、自分がどのように奉仕しているかを見てもらいました。それから一週間ぐらいして、この人から「患者さんの部屋で演奏することの大切さがわかりましたので、このシーンのためにセットを作ることにしました」と連絡がありました。リラ・プレカリアの働きでいつも言っているとおりになりました。正しいことを教えてくださるのは患者さん、「患者さんこそ私たちの先生」なのです。

映画スタッフの方々は、私のシーンのみならず、ホスピスシーンのためのセットを作ろうと、きぼうのいえの部屋の大きさを測定されました。そして、たった一分間の私の出演シーンを撮影するために、それ専用の部屋のセットも組まれました。出来上がったセットは、きぼうのいえと寸分違わぬものでした!

以上のような経過をたどって、撮影本番では、リラ・プレカリアでやっているのと同じように、患者さんに横になってもらい、そのそばでハーブを奏でることが認めら

私が赴任しました静岡教会には、会堂脇に納骨堂が併設されていました。この町中の住宅地によく納骨堂の建築が許されたものだと、当時の常識でも考えられないことだと思っていましたら、近くの他教団の牧師から、その教団の教会の中に納骨堂を作ろうと考え許可申請を市役所に出したら断られ、どうしても納骨堂が必要だというのならルーテル教会の納骨堂に入れてもらいなさいと言われたようです。それにも拘らず、住宅街にあるルーテル教会の教会堂に納骨堂をどうして併設できたのか？ それは戦後7年目に宣教師が建築申請を市役所に出した時、駐留軍米兵のジープに同乗して行ったため、市役所の役人はNOとは言えず黙認したとのことです。その代り、教会堂が老朽化して建て替える場合には、間違いなく廃止を余儀なくされることでしょう。

このようなことが背景にあって、前述の仏教僧侶の「羨ましい」という言葉となったのでしょうか。しかし、それとは別に、次のようなことも起こっていました。ある時仏

れました。ハーブは研修講座で受講生が使用しているもの、歌った曲は研修講座で教える「Agnus Dei(神の子羊)」です。それを映画のカメラがとらえたのですから、リラ・プレカリアがそのままスクリーンに登場することになります。なんとすばらしいことでしょう。今回の映画出演は、神様が私たちの思いを超えて働かれるという事実を改めて感じた出来事でした。

書籍紹介

中村智志著『大いなる看取り』(新潮文庫)

山田洋次監督が映画『おとうと』を作るに際してアイデアを得たとされる書物『大いなる看取り—山谷のホスピスで生きる人びと—』が1月に文庫化されました。その第11章「天国へのハーブ」は30ページにわたり、リラ・プレカリアの牽引者であるキャロル・サックの、きぼうのいえにおける奉仕の様子と、彼女がこの働きに関わるようになる経緯などがわかりやすく、表現豊かに記されています。本の末尾には、単行本ときにはなかった著者と山田監督の対談が付されていて、ここでもキャロルさんのハーブのことやリラ・プレカリアの基盤をなすミュージックサナトロジー(音楽死生学)について興味深い会話が展開されています。著者は講談社ノンフィクション賞を受賞したこともある文章の名手であり、充実した読後感が味わえる一冊です。



教系の幼稚園から聖歌隊用のサープレスとサンタクロースの衣装を貸してほしいという依頼を受けました。子供が喜ぶから幼稚園でも形だけで良いからクリスマスをしてほしいと父兄が要望されたのでお願いしますということでした。仏教系の幼稚園ですからお釈迦様の花まつりもあれば、お正月もクリスマスもあるという正に日本的な祭り文化の表れでしょう。同じ課題を教会も抱えています。秋の七五三をどのように受け入れるか？ 教会では、幼児祝福式として、子供の年齢に関係なく、今日多くの教会で秋に守っています。

お寺も教会も人々の幸せのために、一方は釈迦の教えを通して、他方はキリストの教えをもって仕えているのですが、その際に権威の象徴であるジープによって要求を通すことの善し悪しは常に考えておかなければならないことでしょう。一方においてはこの世のその権威において支援され、他方においてはその同じ権威において弾圧されたのですから。

ブラジル長期ボランティアだより

現在ブラジルには、原田愛さんと中島涯さんのお二人が2年間の長期ボランティアとして滞在中です。二人とも2009年4月から滞在中ですので、ほぼ1年が経過したことになります。今回は原田さんのレポート、そして、中島さんの奉仕する福祉施設からJELAに送られてきた、中島さんに対する感謝の言葉を、中島さんご本人の了解を得てここに掲載します。

原田 愛さんより (2010年2月)



日本紹介の授業で着物が喜ぶ子ども。活にも困らないようにはなりました。ブラジルの人たちの、明るさ、優しさにふれ、充実した日々を送っています。

ブラジルの学校は、1月に始まり12月に終わります。私の働く施設カーザマテウスでも、12月をもって、いったん授業は終わりになりました。そして、1月初めから登録会、選考があり、また新しい顔ぶれで始まるのは3月になります。その間は、休み中の特別授業が行われています。内容は、日替わりで、遊びや制作などさまざまです。

その中で、私も日本を紹介する授業を担当しました。ポルトアレグレから、中島涯さんも手伝いにきてくれました。日本の文化を写真で紹介し、子どもたちと文化の違いについて話をしました。中でも盛り上がったのは、“箸です。割り箸を使い、豆と米をつまむ体験です。いつもはおしゃべりが止まらない子どもたちも、こればかりは真剣に取り組んでいました。遠い日本という国のこと、違った文化が存在するということを知ってもらえただけでも、とても良い機会になったと思います。



箸の使い方練習風景

●異文化のハシ渡し

私がブラジルに来て、9カ月が過ぎました。ポルトガル語には今も苦戦していますが、なんとか日常生活にも困らないようにはなりました。

ブラジルの人たちの、明るさ、優しさにふれ、充実した日々を送っています。

ブラジルの学校は、1月に始まり12月に終わります。私の働く施設カーザマテウスでも、12月をもって、いったん授業は終わりになりました。そして、1月初めから登録会、選考があり、また新しい顔ぶれで始まるのは3月になります。その間は、休み中の特別授業が行われています。内容は、日替わりで、遊びや制作などさまざまです。

その中で、私も日本を紹介する授業を担当しました。ポルトアレグレから、中島涯さんも手伝いにきてくれました。日本の文化を写真で紹介し、子どもたちと文化の違いについて話をしました。中でも盛り上がったのは、“箸です。割り箸を使い、豆と米をつまむ体験です。いつもはおしゃべりが止まらない子どもたちも、こればかりは

りは真剣に取り組んでいました。遠い日本という国のこと、違った文化が存在するということを知ってもらえただけでも、とても良い機会になったと思います。

●ファヴェーラに住む子どもたち

特別授業と並行して、新規の子どもたちの選考のため、家庭訪問を行いました。私もこれに参加し、初めて地域の様子を知ることができました。家庭によって違いはありますが、多くの子どもがファヴェーラと呼ばれる不法占拠地帯(*注:ブラジルでは、だれも使っていない土地に何年か住みつけば、住みついた人が所有権を主張できるようです)に住んでいます。このファヴェーラにある家々は煉瓦でできていて、住民の手作りです。新しいファヴェーラでは、ベニヤ板で囲いだけがしてあるような家が見られます。カーザマテウスの地域のファヴェーラは比較的年数がたっているため、少しずつお金をため、外装内装ともにペンキやタイルできれいになっています。

ファヴェーラの道は細く入りくねっており、丘に建っているため急な坂や階段がたくさんあります。舗装されていない道も多く、独特な雰囲気を醸し出していて、地元の住民でなければ通ることはないでしょう。そんな道にも住所を示すため、手書きで名前がつけられ、手書きで家の番号も書かれています。子どもたちの家を探すため、その番号を頼りに探しますが、住民が勝手につけた番号のため規則性がなく、家を見つけるのはとても大変でした。

わずかなスペースを使って家を建てているため建物は密集し、日当たり・風通しも悪く、下水が道に流れ出ていることもあり、臭いもきつく、環境は決して良



原田さんが住んでいるアパートから見た景色

いとはいえません。そんな中で生活している子どもたち、ここからすぐに抜け出すのは難しいですが、いま行っている教育が、将来ここから抜け出すことにつながるのだと信じています。

●新たな奉仕

2月からはリオ・デ・ジャネイロのボンサマリターノ保育所で働いています。まだ、移ってきたばかりで、地域の状況もよくわかりませんが、子どもたちの笑顔に癒されながら日々を過ごしています。こちらの施設の子どもたちも、近くファヴェーラに住む子どもたちだそう。子どもたちの置かれた環境がどのようなものなのか、また皆さんにお伝えできればと思います。



ボンサマリターノ保育所の様子



リオのファヴェーラ

ミギワ だいすき !

中島涯(なかしま・みぎわ)さんが奉仕している施設の関係者や、そこでお世話になっている子どもたちから、ミギワに寄せられた言葉です。彼の奉仕をブラジルの人々がどのように受けとめているかわかりますね。うらやましいばかりの賛辞です。

○ミギワは非常に特別で、献身的で、信頼できる人です。彼は私たちの施設で折紙のワークショップを始めてくれて、子どもたちが楽しく参加しています。他の教師のプロジェクやゲームでもミギワはよく手伝ってくれます。ミギワ君! あなたのサポートと友情、そして日本文化について学べる機会をありがとう。とても楽しいよ!

Josiane Carvalho ジョジアン・カルババイオ(教師)

○ここに初めて来た日からずっと、私と子どもたちのベストを引き出そうとしてくれるミギワは特別な存在です。時間がたつにつれて子どもたちの親友になり、さらには父親代わりにもあなたになっているのに気づきました。ミギワが子どもたちに注ぐ愛情と心遣いによって、その存在が子どもたちと教師チーム、そして施設全体にとって日ごとに重要になりました。あなたはいつも私の心の中にいます。

Clarice Matos クラリス・マトス(教師)

○ミギワ、あなたはとてもいい人です。あなたとあなたの授業が好きです。施設にはまた、いつでも来てください。日本とドイツから来てくれた先生に感謝しています。かっこいいよ!(なげキッス) Gabi ガビー(9才)

○ミギワ、好き、大好き。いろんな良いことを教えてくれたので、あなたはここで特別な存在です。ミギワを訪ねてきてくれた家族がもう少し長くいれば、日本のことをもっと聞けたのに、残念。あなたの家族はブラジルでいつでも歓迎します。Shayne シャヤーネ(11才)

○ミギワはとてもクールで、僕たちと冗談を言いあったり、すごい折紙も作ってくれて。僕たちの面倒を見てくれて、勉強も手伝ってくれました。ありがとうをたくさん言わないと。ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとう…。 Luiz Antonio ルイズ・アントニオ(12才)

○ミギワ、あなたはとてもいい人です。あなたがいてくれて良かったです。日本からやってきて、折紙を教えてくれてありがとう。あなたはこの施設にとって、とても特別な人ですが、どこへ行っても、温かく迎え入れられることでしょう。ミギワ、あなた

はとても大切な人です。それはあなたが、たとえ嫌いな人とでも一緒に生きることの大切さを教えてくれたからです。私が教養のある女の子になるように、いろいろ教えてくれてありがとう。おかげでおとなの人が尊敬できるようになりました。どんな人にも敬意を持たなくちゃね。大好き。あなたは特別なです。

Ilana イリヤーナ(12才)



奉仕している施設の職員や子どもたちと。

中島涯さんは自身のブログ(<http://brabra-brasil.blogspot.com/>)上でブラジルでの奉仕内容や現地体験した興味深い事柄を公開しています。



クリチバ(ブラジル南部最大の都市)で開催された奉仕者セミナーで(左端が中島涯さん)



リラ・プレカリアへのクリスマス献金でハーブを購入

いままでリラ・プレカリアの働きで関わりを持たせていただいた皆様に、12月上旬にクリスマス献金をお願いするお便りを差し上げました。この研修や奉仕先で使用するハーブ十数台をまとめて購入する必要があったからです。多くの方々(2教会、1学校、34個人)がこれにお応えくださり、合計522,800円もの献金が寄せられました。

た。ハーブ購入費用は全部で約350万円かかりましたが、いただいた献金をこの一部として使用させていただくことができましたことは私どもの大きな喜びです。この場をお借りし、心よりお礼を申し上げます。今後もリラ・プレカリアの働きのために努力を重ねてまいりますので、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

九州ルーテル学院との共催で野原みどりコンサート

一昨年に引き続き、2009年11月13日、熊本の九州ルーテル学院チャペルにおいて、アジアの恵まれない子どものためにチャリティコンサートを実施いたしました。演奏はクリアな音色とスケールの大きい音楽作りに定評がある、実力派ピアニスト野原みどりさん(ルーテル田園調布教会会員)。あいにくの雨にもかかわらず300人の方々が会場を埋め、素晴らしいピアノ演奏にしばし時を忘れました。

このコンサートの収益金は、JELAが支援を続けているインドのCRHPの子ども病院の診療機器の購入に充てられました。



Tシャツのプレゼント各地に

このたびJELAが関東ゼネラルサービス株式会社様より大量のTシャツの寄贈を受け、千葉ベタニアホーム、デンマーク牧場、広安愛児園、光の子会、慈愛園などルーテルの社会福祉施設や国際難民支援団体、ブラジルのサンパウロ、ポルトアレグレ、リオの子ども施設などに分けてお送りいたしました。さらにこれからインドの関係団体などにも送る予定です。

このご厚意を心から感謝し、これからもJELAの活動を支えてくださるこのような企業・団体の協力を求めています。



支援者一覧

(2009年10月1日～2010年1月31日)

● 各プログラム支援献金

赤間峰子/浅見正一/東牧子/荒井和子/有坂鎮子/安藤淑子/飯島早苗/石川史志/石崎勝/石澤とし子/石田浩子/石戸玲子/石原京子/石原登志子/石森京子/市ヶ谷教会/市ヶ谷教会婦人会/伊東節子/猪股祐子/ウエスト東京ユニオン・チャーチ/上原文子/宇賀神智子/浦和ルーテル学院/遠藤邦子/大分教会/大岡山教会小学科/大塚成美/大中真理/大西善子/小川幾代/加藤裕子/兼岩恵美子/蒲田教会女性会/菅恵/木曾勝子/九州学院みどり幼稚園/九州ルーテル学院/京谷信代/窪田都子/釧路教会/国立のぞみ教会/光塩女子学園/甲府教会/小松かつみ/西条ルーテル幼稚園/崎山たも/佐々木博團/佐藤義雄/佐野正子/篠原優子/新村晶子/杉浦え/鈴木広子/鈴木やす/聖学院大学/関淑子/関口佳子/高橋ふく子/田口理架子/竹森洋子/田坂仁・和子/立山久美子/田中寿代/田中美紗子/谷口恭教/玉名教会/玉名ルーテル幼稚園/蝶間林裕美/辻昭子/辻美貴/堤重敏/ゲール・ケネス/都南教会教会学校/中川浩之/中島康二/西一郎/西恵三・千恵/西垣親子/西平薫/西村晴道/日本キリスト教団群馬地

区大会実行委員会/日本ルーテル教団関東地区婦人の集い/日本ルーテル教団東京ルーテルセンター教会/野田マサ子/野原弘子/芳賀美江/萩雅子/早瀬康平/樋川好美/平田幸子/平林洋子/廣幸朝子/廣田正勝/深川育子/藤井浩/福貴秀/古川知代子/古川博子/古川文江/ベンケ・パトリック/保谷教会/細山千恵子/堀田裕子/前山貴史子/三上百合子/南節子/南谷なほみ/稔台教会婦人会/宮田満須子/村上裕子/室園教会女性会/畠山昭恵/森保宏/八木妙子/八坂由貴子/矢野和江/山県順子/山口円/山崎恵美子/山本了/横山恭子/吉田佳代/吉村真由美/李明生/若原奇美子/和田雪香/Bobbi Cyr/The Lutheran Church of the Good Shepherd Global Mission 他匿名複数

● 賛助会費

秋田淳子/穂田信子/石崎勝/宇五十鈴/梅田満枝/大澤朝子/神谷智子/倉知延章/小石川教会/島宗正見/竹森洋子/土居由美/仲吉智子/西恵三・千恵/廣田正勝/藤本紀子/森田雅子/山口円 他匿名複数

以上、敬称略。ご支援ありがとうございます。

匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

編集後記

新聞に「50歳以上に聞く『理想の異性像』』というアンケート結果が出ていました。男性が回答した理想の恋人に近い女性のベストスリーは、1位=吉永小百合、2位=妻、3位=八千草薫。一方、女性が示したそれは、1位=木村拓哉、2位=鳥越俊太郎、同数2位=氷川きよし、という内容。男性が2位に「妻」を挙げているのに、女性にとって「夫」は4位以下らしい(記事は3位までしか触れていません)。我が家かどうなのか興味を覚えますが、それはともあれ、吉永小百合さんは相変わらず人気が高いですね。私が小学生の頃に雑誌で目にしてから約半世紀、ずっと世間の「憧れのひと」のようです。何度かご紹介しているように、彼女の最新作『おとうと』(山田洋次監督)に、ハーブと歌で祈る奉仕者としてキャロル・サックがちよっとだけ登場します。本号の出演エピソードに興味をもたれた方は、『大いなる看取り』(新潮文庫)の「天国へのハーブ」の章もぜひお読みください。リラ・プレカリアの働きの実際が巧みに描写されています。(M)